

〔教育委員会 生涯学習課 所管〕

03020111 児童クラブ運営事業

決算書P. 223

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	143,730	190,687	46,957	
国庫支出金	32,388	47,974	15,586	子ども・子育て支援交付金 (放課後児童健全育成事業)
県支出金	32,632	29,414	△ 3,218	子ども・子育て支援交付金 (放課後児童健全育成事業)
地方債				
その他	44,870	57,595	12,725	児童クラブ入所負担金
一般財源	33,840	55,704	21,864	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

放課後、帰宅しても就労などにより保護者が日中家庭にいない小学生を対象に、児童の安心・安全な居場所を確保し、保護者の就労を支援するとともに、児童の健全育成を図る。

【今年度の取組】

利用者の利便性向上に向けて、早朝保育（午前7時から）に加えて、延長保育（午後7時15分まで）を可能にするため条例改正を行った。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、学校が臨時休業（令和2年3月2日から4月5日）となったため、急遽、1日保育（午前7時30分から午後7時）を行った。通年利用者のほか長期休業期間の利用者や緊急利用者也受け入れたため、人数も多くなり、通常の専用室（26室）に加えて、校舎内の特別教室等（4室）を臨時的に使用し、特に支援員数の不足が生じる午後2時30分までの時間帯を学校の教職員が補助する体制で運営を行った。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
児童クラブ数	支援	20	25	26	31
児童クラブ参加児童数	人／年	111,666	160,000	166,811	170,000

【成果の動向】

学校によっては、在校児童数が増加していなくても児童クラブ利用者が増加する状況にある。

共働き世帯は増加傾向にあり、今後更に、利用者数の増加が見込まれるため、施設整備や支援員の育成など必要な対策を講じ、待機児童ゼロを継続させる。

【今後の事業の方向性】

利用者数が増加し続けているため、待機児童が発生しないようにクラブ室の増設が必要になる。運営業務を委託しているが、支援員の確保が課題になっている。

今後、公施設だけでは利用者数の増加に対応できなくなるため、民設民営児童クラブの運営を支援できる制度設計を検討する。



クラブ室内での活動

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費		11,578	11,578	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他		7,168	7,168	地域福祉基金繰入金(ふるさと納税)
一般財源		4,410	4,410	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

児童数増加に伴い、クラブ利用者も増加するものと見込まれるため、令和3年4月から受入れ定員拡大に向けて新たに児童クラブ専用室(1棟4クラブ)を建設し、保護者が安心して子どもを預けることができる環境を整備する。

【今年度の取組】

建設場所の選定、地盤調査を行い、施設実施設計を委託した。
施設・設備に関して、事前に保護者や支援員から要望等を聞き取った内容を設計に取り入れるよう設計業者に要望した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
黒内小学校児童クラブ数	支援	2	4	5	8
黒内小学校参加児童数	人/年	15,460	24,521	33,672	38,000

【成果の動向】

黒内小学校は児童数の増加により余裕教室がなく、放課後に借用できる教室も少ないため、児童クラブ専用室の増設は喫緊の課題であった。

また、通年利用者のみならず、長期休業期間のみの利用者も多いため、施設を建設し定員を2倍に拡大することで、年間を通して子ども達が安心して過ごせる生活の場を提供することができる。

【今後の事業の方向性】

令和3年4月開設に向けて、令和2年度内に建設工事を実施する。



完成イメージ (写真は守谷小学校児童クラブ)

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費		75,774	75,774	
国庫支出金		48,794	48,794	子ども・子育て支援整備交付金
県支出金		10,288	10,288	子ども・子育て支援整備交付金
地方債				
その他		16,692	16,692	地域福祉基金繰入金(ふるさと納税)
一般財源				

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

児童クラブ利用者が増加傾向にあるため、令和2年4月から受入れ定員拡大に向けて新たに児童クラブ専用室(1棟2クラブ)を建設し、保護者が安心して子どもを預けることができる環境を整備する。

【今年度の取組】

工事着工に当たり、近隣住民への周知のほか、建設地の既存施設(鳥小屋)の移設、仮囲い設置の際の導線確保や近接するため延焼のおそれがある校舎の一部改修など、工事期間前、期間中に学校との綿密な調整を行った。

また、週一回の工事監理者、建築工事請負事業者、監督員(担当職員)による定例会議により、円滑な工程管理を行い、工事期間内(令和2年2月末)に施設が完成した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
松ヶ丘小学校児童クラブ数	支援	2	3	3	4
松ヶ丘小学校参加児童数	人/年	12,525	19,500	20,000	22,500

【成果の動向】

児童クラブ専用室の建設により定員拡大を図ったことで、利用者増加に応じた子ども達の安心・安全な生活の場を提供することができた。

【今後の事業の方向性】

今後、修繕等建物の維持管理については、引き続き、児童クラブ運営事業で対応する。



松ヶ丘小学校
新第1・新第2児童クラブ外観



松ヶ丘小学校
新第1・新第2児童クラブ室内

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	4,500	4,500	0	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他	4,500		△ 4,500	
一般財源		4,500	4,500	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

県主催のアーカスプロジェクトに参画することにより、市民に芸術文化活動の体験機会を提供するとともに、地域の文化活動の推進と市のイメージアップを図る。

アーティストとの交流機会を提供することで、子どもたちの豊かな心と感性を育てる。

【今年度の取組】

アーティストインレジデンスプログラムで、3人のアーティスト(出身地: 日本, イギリス, イタリア)が招へいされ、市民に芸術鑑賞やアーティストとの交流の場を提供した。

子どもや市民も参加しやすいワークショップ(ヒビノホスピタルvol.75)を開催した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
事業に参加した市民の数	人	1,799	2,176	1,515	2,200

【成果の動向】

毎年、同じ事業(オープスタジオ, ヒビノホスピタル等)を継続しているが、市民の認知度はまだまだ低い。誰もが参加しやすく楽しめるよう創意工夫されているが、参加者は減少している。

更なるプロジェクトのPRを継続し、市民にスタジオに足を運んでもらうだけでなく、スタジオ外に出張したり、情報発信するなど工夫する必要がある。

【今後の事業の方向性】

県からは、新たな試みとして、市民の目に触れる場所や人が集まる場所など、アーティストの作品を展示できる場所を探しており、事業拡大の要望があるが、プロジェクトを知らない市民が多いため、市内の他団体等との協力や交流により、芸術に親しむ市民のすそ野を広げる事業を取り入れるなど、「アーカスプロジェクト」の認知度を上げる取組を優先して行う。



アートイベント(ヒビノホスピタル)



招へいアーティストの活動発表会

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	1,302	1,299	△ 3	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	1,302	1,299	△ 3	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市民が日常的に芸術に親しみ、生きがいや楽しみを持って生活を送ることで、市に愛着を持ってもらう。また、庁舎で開催することによって、行政を身近に感じてもらう。

音楽サークル等に演奏の場を提供するとともに、プロと同じステージに立つことで、音楽活動への意欲向上と活性化を図る。

【今年度の取組】

広報紙等で市内音楽サークル等出演団体の募集を行った。さまざまなジャンルの音楽や幅広い年代の音楽を提供するため、市内企業や守谷高校等に出演を呼び掛けた。

市文化協会の有識者が中心となる運営委員会でプロ出演者を決定し、各回の最終プログラムで本格的な音楽に触れる機会を提供した。

出演団体による実行委員会を組織し、各回の運営を行った。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
出演団体数	組	17	15	14	16
来場者数	人	844	588	648	700

【成果の動向】

前年度と比較して、出演団体数は減少したが、来場者数は微増している。お子様連れの若い世代の来場者も見られる。

【今後の事業の方向性】

気軽にさまざまなジャンルの音楽を鑑賞できる場を提供し、市の「夏の風物詩」としてPRし、あらゆる年代の方に足を運んでもらえるよう工夫する。

プロ出演者の選定に当たっては、アンケート調査で要望の多い演奏者や人気のあるジャンルの演奏者に出演を依頼する。



ステージ発表の様子(左:高校生バンド 右:コーラスサークル)

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	17,379	19,482	2,103	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他	5,828	607	△ 5,221	もりや学びの里使用料(一時使用分)
一般財源	11,551	18,875	7,324	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

世代を超えて利用できるコミュニティ施設として、市民が生涯学習や趣味活動ができる場を提供する。

【今年度の取組】

施設、設備の不具合による修繕及び改修工事を行った。

〔内容〕調理室排水修繕、陶芸用電気窯修繕、エアコン室外機修繕、体育館照明器具修繕、体育館カーテンレール修繕、校庭側時計修繕、トイレドア修繕、コンセント増設、掲示板設置、自動ドアセンサー交換、フェンス改修工事

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
延べ利用者数	人	33,090	37,384	39,120	35,000
施設の改善(修繕)件数	件	8	18	12	8

【成果の動向】

陶芸窯や体育館、バーベキュー施設など他の施設にはない設備があり、市民の学習、趣味や余暇活動の場として、多くのサークル・団体活動等に活用されている。

【今後の事業の方向性】

適切な施設の維持管理を行い、サークル活動の支援と教育活動及び地域活動の場を提供する。



もりや学びの里

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	1,298	2,669	1,371	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	1,298	2,669	1,371	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

スポーツ及び文化の振興を図り、市民の健康づくりと文化意識の高揚に寄与する。

【今年度の取組】

交付対象基準となる要綱を改正し、スポーツ振興事業では、高校生以上の奨励金交付条件の緩和、対象となる大会の拡大、文化振興事業では対象となる大会・コンクール等の明確化を図った。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
交付者数(スポーツ)	人	66	88	162	150
交付者数(文化)	人	—	5	19	20

【成果の動向】

要綱改正に伴い、奨励金交付対象者が増加し、前年度と比較して約2倍となった。

スポーツ振興事業、文化振興事業とも、全国規模の大会やコンクールに出場する小中学生が多く、交付条件に対する問合せも増加している。

【今後の事業の方向性】

今後も事業を継続し、市のスポーツ及び文化の振興と発展を図る。

奨励金交付者の増加に伴い、広報紙掲載や授与式の開催時期、運営等を再検討する必要がある。

対象となる大会やコンクールについて、申請者が明確に理解できるよう周知する必要がある。



トランポリン競技世界選手権
シンクロナイズド競技優勝の高木裕美さん



全国大会に出場した
「スポーツ少年団守谷クラブ」
(ハンドボール競技)

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	1,922	2,100	178	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	1,922	2,100	178	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

新成人者を対象に、人生の節目を記念して成人式を実施し、次代の担い手として今後の活躍を願い祝福する。祝福を受けることで、成人としての自覚を持ってもらう。

【今年度の取組】

新成人による運営協力員を中心に、式典、イベントの2部構成で実施した。

平成31年から会場を常総運動公園総合体育館に変更しており、収容人数に対する課題解決を図れたことに加えて、保護者等に観覧席で参観していただけるよう、案内状等で積極的に周知した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
新成人に対する参加者の割合	%	70.00	70.00	84.50	85.00
式典参加者数	人	473	493	583	600

【成果の動向】

新成人の8割以上が参加しており、当日の運営の際は、警察等関係機関から協力を得ながら、運営協力員の尽力により円滑に実施することができた。

【今後の事業の方向性】

守谷市を担う若者の成人を祝う大事な行事として継続する。

令和4年4月1日に施行される改正民法に伴い、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられることに伴い、今後、令和4年度以降の成人式の対象年齢について、社会教育委員の会議や教育委員会からの意見、成人式実行委員を対象に行ったアンケート結果などを踏まえて方針を決定する。



はたちの主張



新成人による運営協力員

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	57,589	49,460	△ 8,129	
国庫支出金				
県支出金	10,780	10,354	△ 426	放課後子供教室推進事業費補助金
地方債				
その他	6,640	7,833	1,193	放課後子ども教室事業保護者負担金
一般財源	40,169	31,273	△ 8,896	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

子ども達の安心・安全な活動拠点(居場所)を設け、学習活動やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子ども達の社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を育むとともに、地域コミュニティの充実を図る。

【今年度の取組】

地域の方々や各種サークル・団体等の協力を得て、さまざまな遊びや学習、体験活動を行った。

参加児童にアンケート調査を行い、意見や要望を運営委託事業者と共有し、活動プログラム設計時に生かすよう指示した。

年2回の体験日を設けて子ども達に参加する機会を提供するとともに、学校との連携・調整により、学校内の施設(体育館・特別教室等)を活用して安全に活動することができた。

3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校が臨時休業となったことに伴い、開催を中止した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
子ども教室開設数	教室	9	9	12	15
子ども教室参加児童数	人/年	31,097	31,500	47,799	33,000

【成果の動向】

平成30年度から無料日を廃止したため、参加児童が一時的に減少したが、令和元年度は登録児童数が増加した。

参加児童を対象に行ったアンケート調査によると、約90%が「楽しい」、「まあまあ楽しい」と回答しており、子ども達の意見や希望を反映した活動を取り入れた成果が見える。

【今後の事業の方向性】

低学年児童の参加が多いため、高学年が授業をしている5・6時間目の活動場所の確保が難しくなっている。特別教室等学校内の施設活用による安定した活動の継続や、施設の施錠等セキュリティ対策など学校との綿密な連携・協力体制が重要になる。



サッカー教室



読み聞かせ

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	119,040	102,708	△ 16,332	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他	547	224	△ 323	公民館貸付料
一般財源	118,493	102,484	△ 16,009	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

多様化・高度化する市民の学習ニーズに対し、幅広い年齢層に学習機会の提供を行い、利用者が安全で快適に生涯学習や趣味活動等ができる場所を提供する。

指定管理者による管理運営により、市民ニーズに効果的、効率的に対応し、民間能力の活用とサービス向上を図る。

【今年度の取組】

公民館運営協力員会議のほかに、講座検討会議、公民館まつり実行委員会に地域の方々に参加いただくことで地域と公民館のつながりを強化した。

また、指定管理者と担当職員との月次ミーティングにより、各館運営の課題、利用者の意見・要望の共有や報告事項の確認を行い、サービスの質の向上と新たな利用者を増やす事業を検討するなど、指定管理者と協働で館運営に当たった。

第2期目の指定管理期間（5年間）が令和元年度で修了するため、募集要項を改訂し、新たに令和2年度から5年間の指定管理者を募集・決定した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
延べ利用者数(4館)	人	203,184	200,598	141,892	208,866
公民館講座に満足している参加者の割合	%	96.90	96.10	95.90	98.00

【成果の動向】

中央公民館が改修工事により1年間休館したため、延べ利用者数は減少しているが、郷州・高野・北守谷公民館の利用者はそれぞれ増加している。

講座参加者へのアンケートや各種委員の意見をもとに講座・イベント等を企画・実効しているため、参加者の満足度は高い。

【今後の事業の方向性】

令和2年度から5年間の指定管理者を募集するに当たり、自主事業による収益確保に重点を置いて募集・選考したため、指定管理者が提案した事業を実施できるよう支援する必要がある。

また、定期的なモニタリングを行うとともに、指定管理者の自己評価、施設所管課による評価の後、今後、評価委員会等での第三者評価を行い、その評価結果を改善に結びつける仕組みを研究する。



郷州公民館



高野公民館



北守谷公民館



中央公民館

10040405 中央公民館改修事業

決算書P. 421

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	337,278	541,717	204,439	
国庫支出金				
県支出金				
地方債	291,000	471,000	180,000	公民館施設改修事業債
その他				
一般財源	46,278	70,717	24,439	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

利用者が安全に安心して利用できるよう施設・設備の改修工事を実施し、快適な学習活動や趣味活動等の場を提供する。

【今年度の取組】

工事着工に当たり、隣接住民への通知、学校説明等を行った。
週一回ごとに、工事監理者、改修工事（建築・電気設備・機械設備）請負事業者、監督員（担当職員）による定例会議を行い、工事の進捗確認等を行った。
工事着工後に、空調ダクトパッキンにアスベストの含有が判明し、除去のための設計変更及び工期延長となったが、利用者の使用希望日調整や設備点検、備品の搬入等、早期開館に向けて行程管理を行った。
また、館内各室の利用方法を検討し、貸室の増設等を行った。

【成果の動向】

空調機入替、ホール改修（舞台装置、音響設備、照明器具等）等や貸室の増設により、利用者に安全で快適な学習活動や趣味活動等の場を提供することができた。

【今後の事業の方向性】

本改修工事完了後、当該事業は終了となるが、修繕等建物の維持管理については、引き続き、公民館運営管理事業で対応する。



中央公民館ロビー



中央公民館ホール客席

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	2,000	1,600	△ 400	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	2,000	1,600	△ 400	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市民の健康増進と体力向上のため、各種運動競技の普及発展と競技力向上を目的に活動する市体育協会の自主的な事業を支援し、市民交流とスポーツ活動の推進を図る。

また、市が主催するスポーツ大会やイベントへの協力など体制強化を図る。

【今年度の取組】

市体育協会に対する補助により、各部会が各種競技の大会及び講習会等を開催し、親睦と競技力向上を図った。

法人化の検討に当たり、県内の先進地（水戸市・常陸大宮市）の視察、情報収集を行った。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
体協会員数	人	1,734	1,794	1,748	1,900
体協主催事業参加者数	人	8,000	8,500	9,178	8,000

【成果の動向】

例年同様のスポーツ大会、講習会等を開催し、事業への参加者は増加しているが、会員数の大幅な増減はない。

【今後の事業の方向性】

市体育協会既存事業の一部は、会員対象に留まらず、多くの市民が気軽にスポーツができる場やきっかけづくりとなるよう改善する。また、法人化の検討を具体化し、市内体育施設の利便性向上や市と協働で市民のライフステージに応じたスポーツ活動を振興することを目指す。

今後、広域連携によるスポーツ大会・イベント等への開催や参加促進など、スポーツ環境の整備と会員の更なる意欲向上を支援する。



市民チャリティーゴルフ大会表彰式

バスケットボール連盟
夏季近隣大会

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	1,415	1,920	505	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	1,415	1,920	505	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

スポーツ少年団による各種運動競技の普及・発展、競技力向上と各少年団間の交流を目的に活動するスポーツ少年団本部の自主的な事業を支援し、青少年健全育成と児童の体力向上に寄与する。

【今年度の取組】

地区予選を勝ち抜き、県大会以上の大会に出場するスポーツ少年団登録チーム及び個人の遠征にかかる助成金を交付した。

スポーツ少年団本部は、指導者が適切に子ども達の安全なスポーツ活動を指導・支援できるよう熱中症対策講習会を実施した。

また、各少年団間の交流を図るため、スポーツフェスティバルでスポーツ少年団交流会を実施し、1年生から6年生までの混合チーム編成による、異団体・異学年交流の場を提供することができた。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
市内のスポーツ少年団数	団体	27	25	23	28
団員数	人	636	645	587	700

【成果の動向】

少年団の合併や退会により団体数が減少した。それにより、団員数もやや減少した。

【今後の事業の方向性】

スポーツ少年団本部は、各部会が開催する大会や教室を継続しつつ、交流会や指導者講習会の内容や時期を検討し、参加率を向上させる。

他自治体のスポーツ少年団との情報共有や大会・イベント等の共同開催など、新たな事業展開を検討する。

令和2年度から、日本スポーツ協会の指導者登録制度改正により、資格取得者2名の設置が義務化されるとともに登録料が徴収されることから、計画的にその費用負担を支援する。



守谷市スポーツ少年団交流大会
「五色綱引き」



取手ブロック交流会
「ヘルシーボール大会」

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	3,000	3,000	0	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他	3,000		△ 3,000	
一般財源		3,000	3,000	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市体育協会主催による「守谷ハーフマラソン」開催に対して補助することにより、幅広い年齢層の人々に健康増進をもたらすとともに、全国からの参加者に守谷市をPRする。

また、大会運営に多くのボランティアが参加しており、市民相互の交流を深める機会になっている。

【今年度の取組】

守谷ハーフマラソン実行委員会(市体育協会主催)により、令和2年2月9日(日)に第36回守谷ハーフマラソンを開催した。

運営ボランティアの駐車場及び集合場所を分散し、従事場所への移動がしやすくなるよう配慮した。

また、会場内では、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献するため、不要になったスポーツウェアやタオル等を無料で引き取るコーナーを設置し、回収後、開発途上国の人々に届ける取組を行った。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
参加申込者数のうち完走者数	人	5,160	4,995	4,919	5,300
市内参加申込者数のうち完走者数	人	1,821	1,723	1,475	2,000

【成果の動向】

申込者は若干減少したが、参加費の値上げ(高校生以上5,000円(500円アップ)、小中学生2,800円(300円アップ))と協賛企業の新規開拓、参加賞の見直しにより、収入確保と経費削減を図り、安定した運営を行うことができた。

【今後の事業の方向性】

参加者から距離別参加費の設定要望があるため、総事業費(収支予算・決算)を検証しながら、運営委員会が中心となって検討していく。

今後も参加者及び運営ボランティアの意見をもとに、魅力ある大会を目指して取り組んでいく。



ハーフマラソンの部 スタート



フォトブース



ハーフの部TX橋梁付近

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	1,062	1,193	131	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	1,062	1,193	131	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

中学生が日本最高峰である富士山に登山することにより自然の素晴らしさを知り、仲間と協力し合うことの大切さを学ぶ。また、団体行動を通して、社会の一員としての自覚を養う。

【今年度の取組】

中学生が安全に安心して楽しく登山できるよう、現地の登山ガイドを4班に1名配置(計3名)し、山小屋との連絡や突発的に起きる落石事故等回避の安全対策など、緊急時の対応を迅速に図れるよう努めた。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
参加者数	人	124	89	120	120
登頂に成功した人数	人	116	76	110	110

【成果の動向】

例年、日程の都合上、運動部に所属している生徒は、県大会と重なる場合が多いため、参加人数が減少する傾向にあったが、令和元年度は、前年より30名ほど上回り約120名の申し込みがあった。登山隊の構成や指導者の編成に配慮した結果、申込者全員に参加いただくことができた。

旅行業務の委託、登山ガイドの配置等により事務量や引率者の負担は軽減されている。

【今後の事業の方向性】

社会教育・学校教育の両面で子ども達の「生きる力」を育むために自然体験活動が推進される中、登山を通じて感動したり、驚いたりしながら考えを深め、実際の生活や社会、自然の在り方を学ぶ機会を提供してきた。

学校、協力団体、関係機関等にも意見聴取し、今後の事業実施の方向性について再検討を行う。



頂上にて班の集合写真



全体集合写真(頂上にて)



富士山ホテルで夕食

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	22,569	17,934	△ 4,635	
国庫支出金				
県支出金	4,381	14,680	10,299	国民体育大会運営交付金
地方債				
その他	12,620	523	△ 12,097	ふるさとづくり寄附金(クラウドファンディング)
一般財源	5,568	2,731	△ 2,837	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」開催の準備を進めるため、守谷市・常総市・坂東市がハンドボール競技共同開催地として必要な事業を行い、ハンドボール競技の普及とスポーツの振興に寄与するとともに、「いきいき茨城ゆめ国体守谷市市民協働推進アクションプログラム」に基づき、市民一人ひとりが国体に参加する機運を高め、市全体で国体を盛り上げ、協働のまちづくりの推進につなげる。

【今年度の取組】

「守谷市市民協働推進アクションプログラム」に沿った市民・関係団体等を巻き込んだオール守谷の市民運動として、市民ボランティア及び高校生対象のおもてなし研修、花いっぱい運動、クリーンアップ運動、炬火名及び炬火ランナーの募集、各小学校での採火式及び炬火イベントの実施、学校応援や国体応援ふるさと納税(クラウドファンディング)等の取組を展開した。

国体会期中は、台風等の災害対策、平日の会場応援協力体制の強化、土日の来場者数増加に伴う対応、市民団体等への協力の呼び掛けや大会従事職員の配置調整等、庁内推進本部が中心となっており、競技会場の運営に当たった。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
入場者数(常総運動公園体育館)	人	-	774	8,178	-
国体関係事業に関わった市民の数	人	-	698	899	-

【成果の動向】

守谷市会場で開催された成年女子で、茨城県が決勝まで勝ち上がり、土日の競技会場が超満員となったが、大会従事職員や市民ボランティアの対応により、問題なく大会運営ができた。

各種市民運動、国体会期中の市民ボランティアに多くの方が関わり、国体を盛り上げていただいた。

【今後の事業の方向性】

常総市・坂東市との共同開催による国体ハンドボール競技会を成功裏に終えた。令和2年度以降は、国体レガシーの継承・発展を目指して、「国体記念茨城県中学校ハンドボール大会」を三市により開催する。

また、国体の運営や各種市民運動に関わる市民が増加したため、国体終了後は、守谷市スポーツサポーターに登録していただき、市のスポーツ事業等の支援に関わる市民の組織強化につなげる。



豪快なシュートを放つ相澤選手(守谷市出身)



学校応援



守谷市の炬火名



炬火イベント



守谷駅の総合案内所



競技会を支える高校生ボランティア



国体ダンス(土塔中央保育所児童)



承子女王殿下お出迎え



第2位を獲得した茨城県成年女子



高円宮承子女王殿下お成り

【財源内訳】

(単位: 千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	627	649	22	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他	29	32	3	スポーツフェスティバル参加料
一般財源	598	617	19	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

子どもから高齢者まで誰もが気軽にスポーツに親しむきっかけづくりと、継続的なスポーツ・レクリエーション活動の実施により、市民の健康増進と体力向上を図る。

【今年度の取組】

例年の実施種目に加えて、市民提案型協働事業からパラリンピック公式種目「ボッチャ」を取り入れ、障がいがある方も一緒に楽しめる交流イベントを実施した。

国体開催種目であった「ハンドボールシュート体験」を守谷高校ハンドボール部の協力により実施した。

既存種目のキックターゲットは、民間クラブチームに協力いただき、ゴールの手配と当日の運営を依頼し実施した。

〔イベント内容〕

小中学校対校親善リレー、輪投げ、キックターゲット、グラウンドゴルフ体験、健康ウォーキング教室、サイクルトライアル、室内温水プール無料開放、ポニー引馬体験、ふれあいマルシェ、フリーマーケット他

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
来場者数	人	—	3,000	4,050	2,500
協力者数	人	—	130	155	200

【成果の動向】

新たな種目の実施や実施方法の変更により、参加者の増加につながった。

午後の時間帯は、比較的駐車場に余裕があり、プログラム設計、種目構成等検討の余地がある。

【今後の事業の方向性】

市民がスポーツに親しむ場・機会として魅力あるイベントにするために、参加者の年齢層や性別等部門別の意見を把握する必要がある。

また、既存種目については、連携できる民間事業者等を開拓し、参加者を惹きつけられるよう工夫・改善したり、新たに、親子が一緒に楽しめるスポーツ体験の場の提供等も検討・研究する必要がある。



ハンドボールシュート体験



ボッチャ交流体験